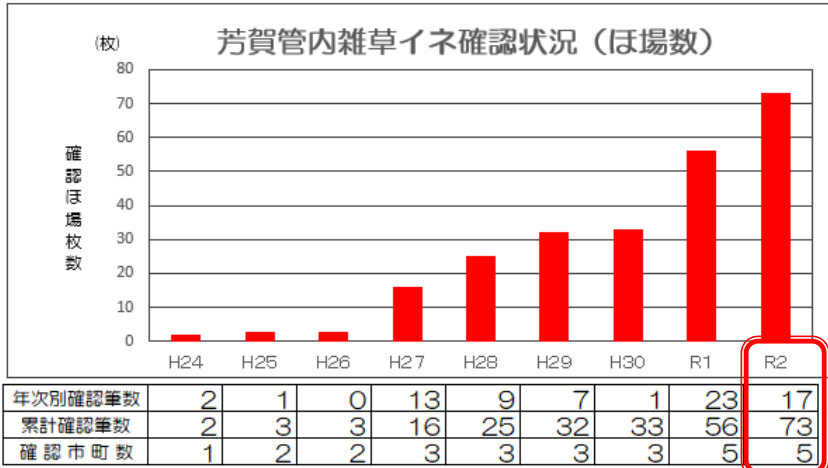


# 赤米混入により品質低下を招く「雑草イネ」 に注意が必要です！！

令和3(2021)年8月  
芳賀農業振興事務所

芳賀地方で「雑草イネ」が発見される事例が増えつつあり、管内全市町のほ場で発生が確認されています。蔓延すると水稻の品質や収量の低下を引き起こすだけでなく、異品種混入により、販売が困難になり経営的に大きなダメージを受けることがあります！！



(令和2年9月末現在 芳賀農業振興事務所調べ)

## 【雑草イネの特徴】

- 雑草イネも「イネ」であるため、水稻除草剤があまり効かない
- 休眠性があるためダラダラと発生するため、除草剤の1回処理では防除しきれない
- 極めて脱粒しやすく、水田内で容易に拡散する
- 農業機械（コンバイン、ロータリー等）に付着して他の水田へも拡散する
- 放置すると収穫した玄米に混じり、異品種混入の被害をもたらす

## Q.あなたの水稻栽培ほ場に、このような稲はありませんでしたか？

1 栽培品種と出穂期や草丈、稈長が異なる	2 芒が長い、心先が着色している	3 風や接触によって、容易に脱粒する	4 粳もしくは玄米が着色している
5 出荷時の検査で、「着色米」や「赤米」混入等の指摘を受けた			

これらに該当する場合、それは雑草イネかもしれません！  
(特に3～5は雑草イネの可能性が高い) →裏面の防除対策の実施を！

## 【雑草イネ防除対策】〔一度発生すると、3年間は徹底した防除が必要です〕

月	内容	留意点（考え方）
10		○収穫後、不耕起 →冬の寒さと乾燥で地表面のこぼれ粉を腐敗、死滅させる。 →鳥類の摂食による減耗も期待できる。
11		○非選択性除草剤散布 【収穫後散布の目的】 ・ヒコバエを枯らす ・発芽粉を枯らす 【作付前散布の目的】 ・こぼれ粉からの発芽粉を枯らす
12		○石灰窒素散布 →地表面にこぼれた粉を枯らすため、稲わら除去後散布。
1		○田畑転換 →作付前の耕起、作付中の中耕、除草剤散布での防除
2		○遅播・遅植 →播種を遅らせ、こぼれた粉を先に出芽させほ場に埋め込む。
3		○除草剤の体系処理 →雑草イネに効果のある除草剤を散布する。 （7～10日間隔を目安に2～3回散布） 【例】 初期剤 ・メテオ1 粒剤 ・エリジャン乳剤 等 初期一発剤 ・エーワン1 粒剤 ・ポデーガード1 粒剤 等 中期剤 ・ナイスミドル1 粒剤 ・フルイングジャンボ 等
4		○田畑転換（麦・大豆・そば等への転換）
5		○手取り除草 →脱粒前（出穂後2週間以内）に抜き取る
6		
7		
8		
9		

### （その他）

○雑草イネが生えてるほ場の機械作業は、雑草イネが生えていないほ場での作業を終えてから実施する（ロータリー、ハロー、コンバイン等）。←機械付着による拡散防止

○雑草イネ発生ほ場での直播栽培は、防除が難しいため「厳禁」です。

### 【収穫物に赤米を発見したら…】

○色彩選別機で取り除けますが、色彩選別機で取り除いても、ほ場の雑草イネが減るわけではなく、根絶のためには、ほ場での徹底防除が基本です。

「雑草イネかも!？」と思ったら、下記にご相談ください

J A はが野本店営農部及び各地区営農センター

芳賀農業振興事務所経営普及部 TEL0285-82-3074